

平成 29 年度国立国会図書館職員採用試験合格者

合格体験記

この合格体験記は、平成 29 年度国立国会図書館職員採用試験合格者（平成 30 年 4 月採用予定者）に、自身の就職活動や今後の目標について書いてもらったものです。今後の当館職員採用試験の受験を検討される方の参考になれば幸いです。

※記載した内容は全て、合格者個人の所感です。試験内容・試験対策等について、当館の公式の見解等を示すものではありません。

<目次> ※年齢は平成 30 年 4 月 1 日時点

1.	25 歳男性（総合職試験合格者）	1
2.	24 歳女性（総合職試験合格者）	2
3.	22 歳女性（総合職試験合格者）	4
4.	24 歳男性（総合職試験合格者）	5
5.	22 歳男性（一般職試験合格者）	7
6.	24 歳男性（一般職試験合格者）	8
7.	23 歳女性（一般職試験合格者）	9
8.	25 歳女性（一般職試験合格者）	10
9.	22 歳女性（一般職試験合格者）	12
10.	22 歳男性（一般職試験合格者）	13
11.	24 歳女性（一般職試験合格者）	14
12.	22 歳女性（一般職試験合格者）	15
13.	25 歳男性（一般職試験合格者）	16
14.	24 歳女性（一般職試験合格者）	18
15.	22 歳女性（一般職試験合格者）	20
16.	22 歳男性（一般職試験合格者）	22
17.	24 歳男性（施設設備専門職員採用試験合格者）	23

※本合格体験記の無断転載を禁止します。

※その他採用試験に関する情報は当館ホームページ「採用情報」をご覧ください。

URL : <http://www.ndl.go.jp/jp/employ/index.html>

<編集・発行>

平成 30 年 1 月 国立国会図書館総務部人事課任用係

〒100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1

TEL : 03-3506-3315（直通） E-mail : saiyo@ndl.go.jp

1. 25歳男性(総合職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

フランス現代思想の先生のもと、社会学と哲学の学際領域を学んでいます。私自身の研究テーマは「会いに行ける女性アイドルとその女性ファンの関係性」です。研究の中では、フィールドワークやファンの方への質的インタビューも行っています。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

ふり返ると、一つのことを突き詰めてというよりはいろいろなことに挑戦した学生時代だったと思います。初心者で始めた大学のオーケストラ活動を軸に、他にも古着交換会の主催サークルに所属したり、また時には演劇の演者にも挑戦したりしていました。雑多な感じがしますが、今振り返るとそのどれもが自分になくはない経験だったのかなとも思っています。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

大きな理由は二つあります。一つは、知の発展に貢献できる仕事がしたいと考えていたためです。資料を遍く収集し、それを保存していくという国立国会図書館の活動は、知の発展に欠かせない根本基盤の構築であると思い、志望しました。もう一つは、説明会でお会いした現役職員の方々の雰囲気、自分に合っているなど感じたためです。勉強好きな職員の方が多く、私もそうした空気の中で生涯学び続ける姿勢を持っていたいと思いました。

4. 就職活動の方針

学部時代に就活経験がなかったこともあり、昨年度はとりあえず色々見てみようということ

で、いろいろな民間企業のインターンに参加しました。近くで開かれる説明会には興味があろうがなかろうがとにかく参加しまくり、参加特典の図書カードをもらう日々を送りました(笑)。そうした雑多な活動の中で逆に自分がやりたいことの輪郭が浮かんできたので、結果的に本番の就職活動時期は、「知への貢献」を軸に、大学職員と国立国会図書館を志望しました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

私は公務員を併願していたわけではなかったので、とにかく教養試験で苦労しました。大学入試センター試験の対策本を買って、日本史や生物などを一から学び直しました。専門試験は社会学を選びました。インターネットアーカイブを使って二次試験の過去問を十年分以上集め、それを持って大学図書館に行き、過去に出題された分野をなるべく広く網羅した社会学の教科書を一冊選び、それを使って対策しました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

いろいろありますが、印象的なのは最終のグループディスカッション¹です。自分には思いもよらないアイデアや批判的な視点が次々に飛出し、とても刺激的なディスカッションでした。私の就職活動は、昨夏のインターンでのディスカッションの失敗経験から始まりました。最終のディスカッションをポジティブな思いで終わることができたのは、雑多な経験の中でそうした失敗を無数に積み重ねてきたからこそかもしれないと、今では思っています。

¹ 第三次試験の人物試験(集団討論)のこと。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

仕事内容に関しては、まずは配属させていただく場所での業務を全力で学び、一つ一つこなしていきたいと思います。具体性のない精神論で恐縮ですが、どんなお仕事でも、そこに关わるあらゆる人に対して誠実な態度で臨むことができる職員を目指したいと思っています。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

まとまりのない体験記ですが、みなさんが国立国会図書館を受験される（あるいはされない）という前向きな選択の一助となれば幸いです。

2. 24歳女性(総合職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

学部では外国語学部で韓国朝鮮語を専攻していました。研究分野は韓国の近現代史で、学部卒業論文研究から大学院まで文化財保護史について研究していました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

専攻語の勉強や研究はもちろんのこと、サークル活動やアルバイトにも力を入れていました。サークル活動は日本音楽のサークルと国際協力のサークル、学生会議の団体の3つを掛け持ちしており、アルバイトは病院での受付のアルバイトなど、自分の専門とあまり関わらないことにも多く携わってきました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

自分の専門や自分が学んできたことを役にたてられるということ、仕事をしながら常にいろいろな分野について学んでいける場所であるということが大きな理由です。また、大学で学芸員資格取得のための授業をとっており資料を扱う仕事に興味があったことから国立国会図書館を志望しました。

4. 就職活動の方針

公務員職で志望していたのは国立国会図書館のみで、そのほかは民間の企業を受けました。その中で重視していたことは、必ずしも専門としている分野ではなくても自分が今まで学んできたことができるだけ活かせるかどうかということと、社会貢献度が高いかどうかということです。

5. 当館職員採用試験の試験対策

1 次試験対策では公務員試験の教養試験用の参考書を使いました。2 次試験では専門試験で史学(東洋史)を選択したので、東洋史各範囲の概説書などを参考にし、かつ自分の専門の地域に関してはより細かくおさえるようにしました。面接試験やグループディスカッションは民間企業を受験する際もやっていたので、その際の反省点などを活かせるようにしました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

1 次試験は受験者の人数がとても多く圧倒されました。片方の会場だけでこんなにも多いのかと驚きましたが、とにかくベストを尽くそうという気持ちで臨みました。2 次試験は自分の専門に最も近い分野を専門試験の科目として選択することができたのですが、もっと時間をかけて勉強しておくべきだったと感じました。3 次試験でのグループディスカッション²では民間企業を受験した時よりも長い持ち時間でのディスカッションだったのが印象的でした。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

今の段階で特に取り組みたいのは、調査員の仕事と、資料保存、館内展示に関わる仕事です。調査員の仕事は自分自身がさまざまな分野にまたがって勉強していく必要があるので、より自分を高めていけると思うからです。資料保存、館内展示に関しては、学芸員資格取得のための授業や実習でも学んできたので、それを活かせる仕事にもぜひ関わりたいと思っています。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

就職活動は長く大変だと思いますが、自分のやりたいことを明確にして、さまざまなことに興味関心を持って頑張ってください。

² 人物試験(集団討論)のこと。

3. 22歳女性(総合職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

学生時代は教育学部に所属し、社会教育、学校教育、図書館情報学の講義を主に履修していました。卒業論文は、音楽教育に関して執筆しました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

最も頑張ったのは、サークル活動です。オーケストラサークルに所属し、トランペットを演奏していました。その中で、全体に対する自分の責任、責任を果たすための努力の方法、現状分析の視点等を身につけられたと感じています。また、役職を通して組織運営に関わったことから、多くの人が行動しやすいうように考える機会を得ることができました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

国立国会図書館職員に興味を持つきっかけとなったのは、高校生の時の館内見学です。その後、大学に進学し、図書館情報学や教育学を学びながら、国の基盤を支える仕事をしたいと考えるようになりました。そして、国立国会図書館の業務は、自分が学んできたことを様々な場面で活かしながら、新たな事を学べるうえに、情報の収集、整理、保存、提供を通して、様々な文化、制度を支える仕事であり、まさに社会を支える仕事だと思い、志望を固めました。

4. 就職活動の方針

民間企業や他の国家公務員、国立大学法人等職員(図書)を併願しました。自分が興味を持つ職務内容か否かも意識しましたが、それ以上に、自分が多くを学べる環境かどうかを重視しました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

1次試験については、国家公務員の教養試験の問題集や予備校の講義を利用しました。2次の専門試験については、図書館情報学を選択しました。大学での講義内容をしっかり理解することに加え、複数の教科書が出ているので、それを読み込み、単語などを自分なりに説明できるようにしておきました。加えて、国立国会図書館が出しているカレントアウェアネスを定期的に関連し、気になるトピックについては情報をノートにまとめていました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

一番印象に残っているのは、人物試験です。2次試験の時も、3次試験の時も最初は緊張していました。しかし、丁寧に私の話を聞いてくださり、とても話しやすく感じたのを覚えています。また、就職活動で、面接は、自分を相手に伝える機会である一方、相手を知る機会でもあるということに気付かされました。今思うと、「自分を知ってほしい」という思いだけでなく、「相手についても更に知りたい」という気持ちで毎回の面接に臨むことで、少し肩の力を抜くことが出来ていたかもしれません。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

今後は、さらに多くのことを吸収していきたいと考えています。私は知識が狭く、浅い状態ですので、業務を通して、そして業務に直接は関係が無いことから積極的に学び続けていきたいです。全ての業務に関心がありますが、中でも、収集保存業務、利用者サービス、児童サービス関係の業務、調査業務に興味を持っています。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

私が受験を検討していた頃、高い倍率にためらいを感じていました。それでも、自分を見つめ直すことや、説明会を通して国立国会図書館について知り、自分が働いているイメージを明確にしていくことで、迷いや不安は軽減しました。そして、なにより、「受けなければ受からない」という事実を背中を押されました。皆さんにとって、私の経験が参考になるかわからないのですが、もし不安を感じても、それで選択肢を狭めずに、後悔のない就職活動ができることを心より願っております。

4. 24歳男性(総合職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

日本史学を専攻しています。修士論文では、幕府代官による貸付金運用の実態を明らかにするとともに、その救恤としての意義に着目しながら、幕領地域支配のあり方を研究しています。古文書などの文化財に直接触れる機会が多かったため学芸員の課程を履修したほか、教職課程も履修していました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

大学から始めたフルートが思い出に残っています。大学のサークルに所属して、先輩や同期から教わりながら練習してきました。学祭での発表のほか、地域の吹奏楽団でコンサートを行ったことや、とある企画で数十人のフルーティストと共に「第九」を演奏したことなどが懐かしく思い出されます。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

国立国会図書館を知ったのは、近代デジタルライブラリー(現:国立国会図書館デジタルコレクション)を使って大正時代の学生が解いた数学の問題を解く、という授業を受けたのがきっかけでした。そのような過去の資料を保存し、一般の利用に供するという営みに携わりたいと思い、志望しました。また、私は行政の課題にも関心を持っていましたが、中立的な立場から立法調査を行う業務がある点もたいへん魅力に感じました。

4. 就職活動の方針

①公共性が高く、長期的な視点をもって働けること、②仕事の相手方や社会全体をサポートし、下支えする仕事であること、③自分が溶け込め

そんな雰囲気であること、などを重視しました。国家・地方の行政職などを併願したほか、研究機関や教科書出版、IT企業等を受けていました。元々公務員志望でしたが、視野を狭めてしまわないよう、特に最初は選り好みせず、様々な業界を見渡すようにしていました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

法学で受験しましたが、独学だったため、市販の択一試験用問題集をひたすら繰り返し解き、間違えたものをノートにまとめて読み返しました。条文や判例、論点を正確に記憶するよう心がけたことが、記述試験に活かされたように思います。また、国立国会図書館の面接に特化した話ではありませんが、友人と面接カードを読み合わせたり、模擬面接をしたりして、自分の思いを正確に表現する練習をしました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

面接官の方を含め、採用業務に関わっている職員の方の雰囲気が穏やかだったことや、面接室への移動の際に話しかけてくださって緊張感が和らいだことなどが印象に残りました。私は最後まで進路選択を迷いましたが、そういった職員の方から受けた印象が、最終的な決断の決め手の一つになったと感じています。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

資料収集など図書館機能の土台となる業務や、立法調査業務などに関心がありますが、どこに配属になるにせよ、まずは任せていただいた仕事を一つひとつ確実に実行していくことが目標です。また、異動のたびに新たな知識が求められることになると思いますので、いつも挑戦者の気持ちで学び続けていきたいと考えています。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

「就活」は自らの来し方行く末について考え(させられ)る絶好の機会です。かつての私のように、将来について漠然とした不安を抱いたり、高い倍率に気後れしたりしている方もいらっしゃるかもしれません。私からかけられる言葉はあまりありませんが、どこを受けるにしても自ら選択肢を閉ざすことだけはせず、最後まで諦めずに挑戦していただきたいなと思います。

5. 22 歳男性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

西洋近代史ゼミに所属していました。研究テーマは、19 世紀北欧・中欧におけるナショナリズムの発生と、その性質の変遷についてです。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

古本リユースサークルに所属し、学内の図書の再利用推進活動を行っていました。中でも大学教員の不要な蔵書や、退職される教員の蔵書を寄贈して頂き、学生や院生の方に提供する事業を中心に担当していました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

卒業論文を執筆する際、海外の国立図書館が提供する網羅的な文献検索サービスを頻繁に利用しました。元々何らかの形で研究者を支援する事に携わりたいと思っていましたが、この事を通じて国立図書館が学術研究において果たす意義を認識し、その業務内容に魅かれた事が大きな理由です。

4. 就職活動の方針

大学 3 年次に通信講座を利用して司書講習を修了していたので、当初より図書館を考えていました。図書館以外の志望先は、学術研究に関わる事が可能な仕事かどうかを基準に選び、学校法人や独立行政法人などを併願しました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

教養試験対策は、市販のテキストを用いた知識の暗記を中心に行いました。理数科目が苦手であり、対策しても点数を取れる自信が無かったためです。専門試験では史学(西洋史)を選択しましたが、過去問による問題形式の確認を除

いて、特別な対策は行いませんでした。大学受験時の参考書などを読み直すと良いかと思われます。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

教養試験の受験者数の多さが強く印象に残っています。初めての採用試験だった事もあり、開始前から悲観的になっていました。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

国立国会図書館の業務としてのイメージが強く、研究にも欠かせない、資料の収集・保存業務に関心があります。また、現段階では想像していないような仕事にも、怖気付かずに取り組んでいきたいと思います。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

倍率の高さ・試験期間の長さから尻込みしてしまう試験ですが、説明会等で興味を持ったならば、受験してみる事をお勧めします。国立国会図書館の採用試験は大学で得た知識を生かすことの出来る稀有な試験であり、公務員試験の対策をしていない人にもチャレンジしやすい試験です。

6. 24歳男性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

専攻は日本文学で、江戸時代の戯作の研究をしています。俗文芸と呼ばれるものをなぜ高度な教養を持った武士たちが書いたのか、ということ进行调查しています。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

文芸系のマイナーなサークルで、仲間と無茶をしながら活動の輪を広げていったことが良い思い出です。コンビニエンスストアでのアルバイトや趣味の創作で、いろいろな方の人生と関わったのも大きな経験だったと思います。大学院進学後は研究に没頭しました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

趣味の関係で身の回りに本を出版する方が多かったので、その本をきちんと未来へ受け渡していく仕事がしたいと思いました。また、研究で古典を扱っていることもあって、古典作品を守っていくのは自分だという使命感のようなものがありました。

4. 就職活動の方針

文化や芸術に携わる仕事がしたいと思っていました。それ以外では、説明会での採用担当の方の雰囲気や職場の雰囲気が自分に合いそうかをチェックしました。併願先は公務員から民間までさまざまです。

5. 当館職員採用試験の試験対策

一般的な公務員試験の勉強をしていました。当時は英語の資格の勉強も並行して進めていたのですが、英語の試験でいくぶんかは役に立ったのではないかと思います。面接は、直前に受

けた模擬面接で大失敗をしていたので、練習をしておいてよかったと思います。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

就職活動をしていて、面接の際に「江戸時代の文学を研究しています」と自己紹介をすると大抵困った顔をされるのですが、国立国会図書館の面接では「じゃあ崩し字が読めるの？」と返して下さったのが印象に残っています。就職活動は、落ちたところはどのように落ちたのかわかるのですが、受かったところはどのように受かったのかついにわかりませんでした。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

まずはどんな仕事にもついていけるように努力したいです。将来は、自分の大好きな古典作品が、現代でも価値のある、とても面白いものだと思ってもらえるような仕事がしたいと思っています。個人的には、自分の作った本を図書館に納めるのが夢です。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

自分は就職先に国立国会図書館しか考えていないという状態で就職活動をはじめたのですが、もっといろいろな選択肢を見ても良かったと反省しています。無数にある自分の選択肢の、ひとつひとつを大切にさせていただけると良いのではないかと思います。

7. 23歳女性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

法学部に所属していました。特に専攻というものはありませんでしたが、憲法の演習に参加し、関心を持った判決について色々な角度から検討しました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

大学のオーケストラ部に所属していました。レベルの高い仲間に出会い、多くの刺激を受けました。たくさんの人と一つのものを作り上げる難しさを知り、それを成し遂げたときの感動を実感できたことはとてもいい経験になったと思います。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

資料に向き合うことが好きなので、調査員の仕事を知ったのをきっかけに就職先として考え始めました。また実際に国立国会図書館を利用し、誰もが自分の求める本や資料に出会える図書館に大きな魅力を感じ、その維持発展に関わりたいと思うようになりました。

4. 就職活動の方針

国家公務員と地方公務員を併願しました。社会の制度や基盤づくりに携わる仕事がしたいということを軸に就職先を考えていました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

予備校の国家公務員対策講座を受講していました。予備校のテキストを使って知識をインプットし、他の公務員試験の過去問を中心に解いていました。二次論述に関しては、実際に答案を繰り返し書いてみることで伝わりやすい文章が書けるようになったと思います。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

面接官の方が真剣に話を聞いてくださったのが印象的で、考えていることを素直に伝えることができたのではないかと思います。また職員の方の雰囲気がとてもよく、採用試験を通じてさらにここで働きたいという思いが高まりました。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

国立国会図書館を志望する最初のきっかけとなった調査員としての仕事に関心があります。ただ、調査業務、司書業務、一般事務のどの業務にも携わってみたい分野があるので、様々な業務を経験できることを楽しみにしています。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

就職活動中は悩むことも多いと思いますが、私は人と話す中で自分が気づけなかったことに気づくことがたくさんありました。一人黙々と勉強することも必要ですが、人と関わり合いながら本当にやりたい仕事を見つけていただければと思います。

8. 25歳女性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

学部・大学院を通じ、中世北欧史を専攻してきました。特に12・13世紀ノルウェーにおける木造聖堂彫刻について、教会史的側面の発展との関係から、モチーフの選択とその解釈にアプローチすることを研究テーマとしました。また、学部で学芸員課程を履修し、史資料や情報の保存・継承・活用に関心を持ったことから、大学院進学後に他大学で司書講習を履修しました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

修士論文に向けた研究活動です。日本国内では専攻する人が極めて少ない分野であり、語学の壁や史料の入手等の困難の中、隣接分野の研究に携わる先生方や他の大学院生の方々との交流に思い切って飛び込み、多くのご指導・ご助力を頂けたことで、テーマを貫き続けることが出来たと考えております。また、所属大学の情報システム部署の利用相談員アルバイトも続けてきました。IT機器や学内情報システム・サービスの利用について、学生・教員・職員の皆様の質問や問題解決の最初の窓口として、笑顔と丁寧な対応を心がけてきました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

専門分野や学芸員課程での学びを通じ、記録・情報の損失がもたらす、社会とその将来への重大な影響を痛感したことから、国内全ての出版物を収集・保存・継承する役割を担う国立国会図書館の職務に大きな魅力を感じました。加えて、司書講習や利用相談員のアルバイトを通じ、人と知識・情報を結びつけることから、誰かの「知りたい」「学びたい」という知的好奇心を後押しすること、あるいは疑問や抱える課題の

解決の一助となりたいと考え、知的インフラの整備と提供という国立国会図書館の側面に強く魅力を感じ、志望を決めました。

4. 就職活動の方針

国立国会図書館への志望をきっかけに、公務員という仕事全般に関心を持ち、国家・地方問わず行政事務職をいくつか併願しました。しかし試験勉強を始めたのは前年の秋頃からで、半年程の短期集中で臨みました。また、実際に選考が進む中で、各組織内の雰囲気等に魅力を感じるかや、自身が馴染みやすいかという点についても注視しました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

1次試験については、併願先の国家・地方公務員の教養試験対策を兼ねて予備校の講義や過去問題集等を利用しました。2次専門試験については、史学(西洋史)で受験しました。史学では、学部生向けの概説書と大学受験対応の用語集を使い、過去問から出題事項や時代を予測しつつ、重要なキーワードやテーマを説明出来るように準備しました。範囲が広いため、専門時代を中心に、前後の時代との繋がりや全体像を意識して把握することに注力しました。英語試験については、大学受験用の英単語集で語彙力を補うことを中心に準備しました。しかし、2次試験の対策の時間をあまり取れなかったため、不安を残しつつ当日に臨みました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

一番の憧れであり第一志望の、さらに他の公務員試験と比較しても桁違いの倍率の高さを持つ国立国会図書館で、筆記試験、面接と順に一步一步選考を進ませていただける度に、喜びと不安と緊張を噛みしめていました。また他の公務員試験で様々な選考を受ける中で、自身の考

えが変わるきっかけを得たことや、面接を通じ頂いた評価から思わぬ自身の特性を知ることが出来たこと等、全てが得がたい経験であったと思います。

縮ですが、皆様のこれからを心より応援申し上げます。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

どのような分野においても、配属され任せただけのお仕事に、誠実に向き合い取り組みたいと考えております。そして、各業務で必要な知識や分野について、新たに幅広く学ぶことが出来るという点を、同時にとても楽しみに感じております。予てより関心のある収集保存部門、利用者サービス部門に特に取り組んでみたいと考えておりますと共に、現在は国立国会図書館に勤められている職員の方々とそのお仕事全体を支えることに携わる総務部門にも関心を持っております。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

私は憧れであった国立国会図書館を目指すことを、これまで二回諦めかけた時がありました。一回目は高い倍率を前に受験を決断するかどうか迷った時。二回目は、3次試験後、結果を待ち、実際に合格を頂けるまでの期間でした。しかしその不安を乗り越え挑戦すること、そして最終的に行く先を定める上で、常にその決断の支えとなったのは、学生時代のあらゆる経験に基づいた「国立国会図書館で働きたい」という気持ち一つでした。もし国立国会図書館の職務に関心を持ち、目指したいという思いがある方は、様々な選択肢を視野に入れつつも、是非挑戦してみてください。その思いを支える経験や考えは、その人自身にしかないものだと思います。そして、是非自分だけの軸に素直に向き合い大切にして、将来を考える就職活動へ臨んでいただけたらと思います。精神論ばかりで恐

9. 22歳女性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

教育学を主専攻、心理学を副専攻にしていました。卒業論文は戦前の日本教育史の分野で書きました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

大学の学園祭実行委員と、手足に障害のある子どもたちのキャンプの引率に取り組みました。そのほか、アルバイトもしていました。様々なコミュニティと関わっていたことで、視野が広がったと思います。また、未経験のことにどんどんチャレンジしたことが、自信につながりました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

大学で行われた説明会で司書資格が不要であることを知り、就職先として視野に入れ始めました。そのあと色々と調べる中で、国立国会図書館の業務が、幅広いことに興味を湧く自分自身の特性に合っていると思い、本格的に志望するようになりました。就職活動中に人事の方々の優しい性格に触れたことも決め手となりました。

4. 就職活動の方針

国立国会図書館、県庁、都庁のいずれかで働きたかったため、公務員にしぼって対策をし、民間は併願しませんでした。その代わりに公務員試験は8試験種ほど受験しました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

専門試験は政治学で受験しました。自分自身の専攻ではないため不安でしたが、最も興味を持てる科目を選んだので、そこまで苦痛ではなか

ったです。市販のテキスト一冊分の内容を、自分で説明できるように練習しました。国際関係学のテキストも一部対策しました。英語は時々英字新聞を購入して英文に触れるようにしていましたが、充分には時間を取れませんでした。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

公務員一本にしぼるといふ決断をする際に、両親にはやや反対され、少し不安でした。しかし、興味を持てる民間の分野がなかったので、今思えば無理に民間を受けなくて良かったと思います。どの業種・職種もそこを第一志望にしている人がいると思うので、興味を持たないところを無理に受ける必要はないと思います。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

どの業務も魅力的ですが、特に専攻分野が最も活かせるような国際子ども図書館での業務に興味があります。子どもたちが読書に親しめるよう、様々な企画をしてみたいです。そのほか、レファレンス業務に関心があります。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

試験の倍率が高い上に、幅広い知識が必要な業務が多いため、自分につとまるものかと不安に思われることもあると思います。しかし、学生時代の知識量を評価するのではなく、学ぶ意欲や向上心を評価してもらえる試験だだと思います。ぜひチャレンジしてみてください。また、公務員試験はどうしても長丁場になってしまうので、適度に息抜きするといいと思います。

10.22 歳男性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

政治学を学びました。とりわけ 20 世紀の政治思想や政治哲学に関心をもって学習や研究に取り組みました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

英語サークルでの活動が思い出に残っています。私は元来、英語を話すことに苦手意識をもっていたのですが、不得意なことに挑戦し自分なりの成果をあげることで、努力を成長に結びつける自信をつけることができたように思います。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

幼い頃から本に育まれてきたという意識があり、書籍をはじめとした資料を保存し広く提供する公共図書館の業務に惹かれたことと、政治に関心があり、立法過程を補佐する調査業務に魅力を感じたことから、国立国会図書館の職員を志望しました。

4. 就職活動の方針

業務内容にやりがいを感じられそうか、及び、無理なく長く働き続けられそうか、という二つの観点から志望先を検討し、国立国会図書館のほか、各種国会職員を併願しました。また、就職以外の進路として、法科大学院の受験を選択肢に入れていました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

教養試験の対策として、市販の問題集に取り組みました。特に、数的処理と判断推理については試験前日まで繰り返し解き、感覚を鈍らせないよう心がけました。専門試験(政治学)につ

いては、過去問を参照したほか、大学の教科書を読み返しました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

第3次試験での面接が印象的でした。穏やかな雰囲気の中、私自身の良い面、アピールしたい面を引き出すような質問を多くいただいたように感じました。学業面について詳しくお尋ねいただいたことが個人的には新鮮であり、とりわけ印象に残りました。

就職活動を通じて、自分の長所や短所、選好や価値観などを内省し、言語化することで、自己像や物事の選択基準がある程度明確になりました。このことは、今後の職業生活にとっても有意義な経験であったのではないかと考えています。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

敢えて特定の業務を挙げるなら、調査業務に興味を持っています。また、館を直接訪れることができない方々にも可能な限り充実した資料を提供したいという問題意識から、電子図書館事業にも関心があります。就業後は、大学での専攻にとらわれず、業務に必要な知識や経験を幅広く得ていきたいと考えています。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

人生の進路について集中して考えることができる時間はとても貴重だと思います。国立国会図書館を含め、各種の就業先や進学先等の候補について、時間の許す限り情報を集め、吟味されることをおすすめします。皆様が悔いなく志望を遂げられることを願っております。

11. 24 歳女性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

社会学研究科で、日常生活世界研究のゼミに所属しています。人と場所との関係に関心を持ち、卒業論文では、まちを歩きながらのインタビューをしました。歩くことと、ある場所・まちを理解すること、そこに馴染むことについて考えています。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

塾講師のアルバイトを約3年間していました。個別指導で、生徒の一人を中学1年生から高校受験までずっと担当していたことが思い出に残っています。勉強のことに限らず、小学生から高校生までの生徒と学校生活や趣味や将来の夢など色々な話ができて、懐かしい気分になったり時々ジェネレーションギャップを感じたりしておもしろかったです。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

大学生活を通して(特に大学院進学後、学部生のとき以上に近い距離で様々な専門の研究者と接したことで)一人一人の研究者の背景に果てしない研究の世界が広がっていると感じ、その果てしなさがもっと広がってずっと続いたらいいなと思うようになりました。また、アルバイトで塾講師として生徒の質問対応をしたりする中で、誰かが何かに関心を持ってそれを追求したりそれまで分からなかったことが分かったりしていく過程に寄り添うことにおもしろさを感じていました。

そうした経験から、誰かの思考・研究の材料・成果である文献の収集・保存・活用に関われる国立国会図書館に魅力を感じました。

4. 就職活動の方針

できるだけ所属や年齢に関わらず多くの人に関心を持つきっかけになったりその関心を追求することに関われる場を考え、他に国立博物館や美術館を併願していました。

また、幅広い分野の仕事・多様な人に接することで多くの視点を持ちたいと考えていたこと、福祉や教育機会の問題にも関心があったことから、地方自治体も併願していました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

教養試験は、市販の時事の対策本をくり返し読むのに加え、実践の感覚をつかむために予備校の模擬試験を受けました。

専門試験は、国立国会図書館のWARPを利用して、直近3年分だけでなく過去に公開された全ての過去問に目を通しました。独学で勉強期間も短かったのでまずは頻繁に出題されている分野等の当たりをつける狙いでしたが、的を絞るのは想像以上に難しく、断念しました。選択した科目が大学での専攻と重なっていたため、最低限悔いが残らないよう、大学の授業で学んだことだけは解答できるように授業のノートやテキストを使って復習しました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

面接が、和やかな雰囲気です話しやすく楽しかったです。点数をつけられている・品定めされている感じがあまりなく、就職活動全体をふりかえっても特に、国立国会図書館では、面接官の方と会話をしている、という感覚が強かったです。面接中、自分では想定していなかった性格を面接官の方から指摘していただいたことが印象に残っています。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

現在最も関心があるのは司書業務です。国立国会図書館を志望したきっかけでもあるので、電子化を含む資料の収集・保存や、利用者にとってより便利かつ視野が広がる糸口になるような利用者サービスの提供に携われたら嬉しいです。一方で、色々な部署で様々な仕事をしてみたいという気持ちもあり、どのような仕事でも、必要な勉強を欠かさず柔軟に楽しめたらと思っています。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

少しでも関心があるのであれば、早めに試験対策などの準備を進めることをおすすめします。何か勉強して無駄になることはなく、準備不足の方が後悔につながるかと思います。色々な可能性を検討した上で、それぞれご自身が納得できるやり方で就職活動をして、居心地の良い場所を選んでいただければいいなと思っています。それが国立国会図書館だったらもっと嬉しいです。

12. 22歳女性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

日本文学を専攻しており、現代日本文学のゼミナールに所属しています。文学作品について、時代背景や作家の体験を調査しながら研究しています。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

所属する合唱サークルの演奏会パンフレットの制作に責任者として取り組んだことが印象に残っています。原稿執筆や編集など多くの方々に携わっていただいたものが完成した時には、達成感とともに、そのパンフレットが演奏会の記録として残っていくのだという充実感がありました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

学芸員資格と司書資格のための勉強をする中で資料保存の重要性を知り、また資料と人々をつなぐような仕事をしたいと考えるようになりました。国立国会図書館は元々よく利用していたため、志望先としてすぐに思い浮かびました。説明会に何度か足を運び、業務内容や雰囲気自分が合っていると感じたため志望しました。

4. 就職活動の方針

図書館や博物館のある学校法人を中心に就職活動を行っていました。できるだけ個別の説明会に足を運び、職場の環境や職員の方の雰囲気を感ずるようにしました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

市販の公務員試験対策の問題集や高校時代に使っていた用語集、単語集などの教材を使って

暗記を中心に勉強していました。専門試験の文学は、広く浅く知識をつけることを意識しながら勉強しました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

一次試験の会場がとても静かで緊張したこと、試験後の会場の最寄駅が大変混雑していたことが印象に残っています。就職活動全体では、うまくいかない事が多くて辛い時期もありましたが、周囲の人が自分の将来について親身になってくれて、支えられている事を実感できました。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

さまざまな業務を経験して社会人としてスキルアップしていきたいと考えています。それに加えて、いつか資料を活用した展示作りに携わってみたいです。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

採用試験の期間が長かったり倍率が高かったりと大変なこともあるかもしれませんが、「ここで働きたい」という強い気持ちさえあれば乗り越えられると思います。やる前に諦めなくて良かったと今本当に感じているので、ぜひご自身の気持ちを優先させて決断されることをおすすめしたいです。心身の健康にはくれぐれもお気をつけください。

13. 25歳男性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

大学院では、日本政治外交史の観点から日韓請求権交渉を分析するというテーマで、修士論文を執筆しました。その際、先行研究では等閑視されていた在朝鮮日本財産の処理問題に焦点を当てました。また、学部では、戦国大名の家臣団編成について勉強しました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

大学では、四年間空手道部に所属していました。部活動では、大会での勝利を目指して稽古に励みました。先輩や同期からアドバイスを受けつつ、自分なりに試行錯誤を繰り返して組手の技術の向上に努めました。また、大学院では日本政治外交史の勉強に打ち込みました。研究指導を通じて、指導教官の先生や助教の先輩からは論文を執筆する上での大きな示唆を得ました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

大学院での勉強を通して、研究活動における国立国会図書館の重要性を実感したからです。実際に図書館を訪れて史料調査を行う中で、学術的な研究において国立国会図書館が如何に重要な存在であるのかということを実感しました。それゆえ、国立国会図書館で働きたいという思いを抱くようになりました。

4. 就職活動の方針

民間企業を併願せず、国立国会図書館と地方自治体の二つに志望先を限定して就職活動を行いました。大学院の授業と修士論文の執筆の準備に注力したいと考えていたためであります。また、学部四回生の時に行った就職活動を通じて、民間企業で働くことに自分は不向きである

と感じていたことも、志望先を公務員に限定した理由の一つでありました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

教養試験対策では公務員試験予備校を活用しました。知能分野・知識分野ともに、予備校で学んだことを活かすことができましたと思います。一方で、二次試験の英語試験と専門試験にはほとんど独学で挑みました。大学院の授業で英語の論文を読んでいたため、英語試験の対策は特に行いませんでした。専門試験は日本史で受験しました。日本史の試験対策としては、大学受験の際に使ったテキストを用いました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

採用試験を通して最も印象に残っていることは、一次試験・二次試験の受験者数の多さです。国立国会図書館の採用倍率の高さについては事前に調べていました。そのため、試験会場には大勢の受験者がいることも予想していました。しかし、実際に試験会場に赴くと、予想を上回る程の多くの受験者を目の当たりにしました。「これほど大勢の受験者がいる中で、本当に自分は受かるのだろうか」と不安に苛まれたことを覚えています。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

国内外を問わず、様々なバックグラウンドを持つ人とともに仕事をしたいと思っています。そのため、図書館協力業務に興味があります。また、大学院で勉強したことを仕事に役立てたいという思いもあります。それゆえ、アジア情報を取り扱う仕事や調査業務にも関心があります。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

業務説明会や職員採用説明会への参加をお勧めいたします。説明会に参加して職員の体験談を耳にすることは、国立国会図書館で自分が働く姿を具体的にイメージするための一助となると思います。

14. 24 歳女性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

学部では民事訴訟法を専攻し、全国の大学生が集う合同ゼミを中心に討論を重ねながら勉強していました。また、教職課程も履修し社会科の教員免許を取得しました。

大学院ではESD(持続可能な開発のための教育)政策について学んでいます。ESDは、未来に向けて誰もが「自分なりの一歩」を踏み出すための教育です。ESDを推進しているNPOでインターンをしながら、私自身も持続可能な未来のために何ができるのかを模索しています。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

オーケストラサークルに所属しチェロを演奏していました。中でも大きな思い出は、大学3年時に参加したヨーロッパツアーです。1年以上にわたる厳しい練習で心が折れそうな時もありましたが、「憧れのヨーロッパで演奏したい」という思いを胸に努力を続けました。本番では割れんばかりのスタンディングオベーションを頂き、皆で涙したことは今でも忘れられません。ツアーを通して、諦めずに努力すれば必ず花開くことと、仲間と協力してひとつの曲を作り上げる達成感や素晴らしさを学びました。

また、法律サークルにも所属して学内法律討論会の運営も行っていました。オーケストラとの両立は大変でしたが、それぞれの活動をやり遂げたことで継続力や忍耐力が身に付いたように思います。

自分が「これをやる」と決めたことに責任を持ち、最後まで取り組めたことは、学生生活で得た大切な財産です。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

情報と人を繋ぐことで、子どもから国会議員まで様々な立場の人々とともに学びや知見を深めたいと思い志望しました。

私は学部で教員免許を取得し、一方で大学院では様々な政策について学んできました。そうした中で、子どもたちをはじめとする社会の中の「一人一人の視点」と、政策という「国の視点」の両方を持ちながら仕事をしたいと考えようになりました。国立国会図書館は、図書館を利用する国民のニーズに直接こたえる一方で、国会向けのサービスを行い政策形成にも貢献しています。この点が他にはない大きな魅力で、私がやりたいことにぴったりだと思いました。また、幼い頃から学校の図書室や地域の図書館が好きで、沢山の面白そうな本に囲まれるとわくわくした気持ちが止まりませんでした。私が感じたその楽しさを、今度は多くの人々に伝える側になりたいと思ったことも、志望理由の一つです。

4. 就職活動の方針

「社会の役に立ちたい」という思いが強かったので、公共性の高い仕事を中心に考えました。公務員試験は国家総合職や地方上級など幅広く受験し、その他は新聞社や国立研究開発法人などを併願しました。

就活にあたっては説明会に参加するだけでなくOB訪問も積極的に行い、実際に働いている方々の生の声を聞くことを心がけました。その上で、自分がこれまで学んできたことを生かせるか、「その職場で自分が働いているイメージ」が明確に持てるかどうかを考えました。またワークライフバランスも大切にしたいので、無理なく長く働ける職場かどうかにも重視しました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

教養試験は、自分の苦手分野である数的処理に

絞って勉強しました。基礎的な問題集を繰り返し、解けなかった問題を重点的に復習しました。専門試験は法学で受験しました。条文や判例の細かい知識を詰め込むというよりは、自分の頭の中にある情報をきちんと繋げて一つの解答にまとめきることを意識していました。大学の法律分野の授業を1回も欠席せずしっかり聞いて、真面目に勉強していたことがとても役に立ちました。

面接については、併願先の面接に臨むことが大きな対策になりました。「これまで自分が頑張ってきたこと」「自分の長所・短所」などはほぼ必ず聞かれるため、面接の度に自分の答え方を見直して次に繋げました。面接にも苦手意識がありましたが、回数をこなすとだんだん話すことに慣れてきたので、思い切ってたくさん受けてみて良かったです。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

面接が特に印象に残っています。2次面接では第一志望だけに凄まじい緊張に襲われ、その場で固まってしまいました。もうダメだと思いましたが、面接官の方々は「緊張しなくて大丈夫ですよ。落ち着いて深呼吸しましょう」と優しく仰って、私の考えがまとまるのを待ってくださいました。3次面接でも、これまで頑張ってきたことを「すごいですね!」と頷きながら熱心に聞いて頂きました。面接を通して、本当に温かい方々ばかりの職場なのだ改めて感じ、ここで働きたいという気持ちがさらに強くなりました。

就活全体を通して私が内定を頂いたところは、働くイメージを明確に思い描くことができ、「自分に合っている」と思えたほんの数か所のみでした。6月頃は思うような結果が全く出ず涙が出るほど不安な日々を過ごしましたが、今振り返るともう少し肩の力を抜いて取り組む

べきでした。あまり悲観的になりすぎず、のんびり構えられたら良かったです。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

調査員・司書・参事すべての仕事を一度は経験してみたいなと思っています。その中でも、特に教育分野に関心があるので、国際子ども図書館で子どもたちと一緒に学びを深めるような仕事をしたり、調査員として教育に関するテーマを調べたりしてみたいです。また、もし機会があれば海外の図書館との交流にも関わりたいです。

どの部署においても仕事の中で常に学び続けることができ、自分が学んだことが社会の役に立ち、仕事の経験からさらに学びを深めるという「学びの循環」が築かれている点が国立国会図書館の素敵なところだと思います。そのサイクルをしっかりと回していけるように、一歩ずつ真摯に努力を続けて成長していきたいです。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

私が国立国会図書館を受験する際に一番不安に思っていたことは、100倍を超える倍率の高さでした。受験を検討なさっている方々の中にも、この点が心配だという方は多いのではないのでしょうか。

採用試験を終えてみて感じたのは、「絶対に国立国会図書館で働きたい」というまっすぐな気持ちがあれば、どんなに倍率が高くても3次試験まで進むことができ、そして合格を頂けるのだということでした。自分の思いをぶれずに持ち続けて努力した先に、必ず良い結果が待っています。ただの数字でしかない倍率に怯む必要は全くありません。自分を信じて、堂々と試験に臨んで頂けたらと思います。

皆様それぞれが自分らしい素敵な職業に巡り

合えますよう、心から応援しています。

15. 22 歳女性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

国際政治ゼミに所属していました。ゼミでは、東南アジアの政治・国際問題について研究していました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

法学部の Campus ASEAN 短期プログラムでベトナムとカンボジアにそれぞれ 2 週間渡航したことが印象に残っています。国会や裁判所、法科大学、JICA 事務所を訪問し、各国の政治や法律、現地社会の様子について学びました。日本とは異なる途上国の様子や東南アジアの国ごとの違いを学ぶことができ、視野を広げることができました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

カンボジアに渡航した際に、ポル・ポト政権時代の焚書や知識人の虐殺が、現在のカンボジア社会にどのような影響を及ぼしているかを知ったことで、貴重な資料や情報を保存し、それらへのアクセスを保証することの重要性を考えるようになったことがきっかけです。知的財産を収集・保存し、提供することで、国会や国民に貢献するという国立国会図書館にしかできない業務内容に魅力を感じ、本格的に目指すようになりました。

4. 就職活動の方針

人の役に立つ仕事をしたいと考え、国家・地方公務員を併願しました。就職活動の際に重視したことは、①将来自分が働く姿を具体的にイメージすることができるか、②やりがいを持って働き続けることができる仕事か、という点です。業務説明会に参加した際には、職員の方々や職

場の雰囲気を感じたり、業務内容を詳しく理解したりするようにしていました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

公務員試験対策を行っている予備校を利用し、勉強しました。教養試験は、他の試験の過去問を使って練習しました。専門試験はホームページに掲載されている過去問を参考に、重要な要点をまとめたノートを作り、暗記をして試験に臨みました。面接試験は、面接シートに記入した内容に関するどんな質問にも答えられるように、自分の考えを整理し、準備しました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

3次試験が非常に強く印象に残っています。とても多くの面接官がいらっしゃることに驚きましたが、面接の雰囲気が和やかで、落ち着いて話すことができました。私の話をとても真剣に聞いてくださったので、自分が経験してきたことや考え、熱意をしっかりと伝えることができました。面接でも、面接官や職員の方々の雰囲気から、職場の雰囲気の良さを感じることができました。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

特に興味がある業務は、調査及び立法考査局の仕事ですが、まず、国立国会図書館の職員として一人前になれるよう、様々な部署で経験を積んでいく中で、必要な知識や能力を身につけていくことが今後の目標です。国立国会図書館には、多様な業務があり、それぞれの業務で求められる力も異なると思うので、常に前向きに、全力で、できるだけ多くのことを学んでいきたいと考えています。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

国立国会図書館を受験するか迷っている方がいらっしゃいましたら、まずは説明会に参加してみてください。業務内容や職員の方々の雰囲気を具体的にイメージできるようになると思います。就職試験の中でも特に面接は、不安なことが多いと思いますが、国立国会図書館でどのようなことを行いたいのか自分なりの考えをしっかりと持つことが大切だと思います。長丁場なので、体調に気をつけて頑張ってください。

16. 22 歳男性(一般職試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

法律学を専攻しています。英米公法のゼミに所属し、アメリカの憲法・判例と日本の法制度を比較しています。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

海外でのプログラム参加のため、ゼミで協力して日本の判例について英語で発表したことが印象に残っています。私は判例の英訳を構成する役割を担い、英語判例に似せた構成をしたり日本独特の事情への注釈を入れたりする工夫をしました。私の作った文をゼミ生で協力し合って改善した結果、「読みやすい資料でわかりやすい発表だった」と言って貰える発表をゼミとしてすることができました。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

自由な社会を支えたいと思って国立国会図書館を志望しました。私は書物を通じて様々なことを知り、そして知っていることを友人と教えあってより良い考えにたどり着いてきました。そこで、国民が情報に接する環境を整えると共に、国政に様々な知見を提供することで、よりよい社会を実現する助けになりたいと思う様になりました。

4. 就職活動の方針

公的な制度を通じて様々な地域・職種の人々の自由な活動を支えたいと思い、併願先を選びました。衆議院・参議院の事務局や国家公務員総合職、国家公務員一般職を併願しました。

5. 当館職員採用試験の試験対策

予備校を利用して公務員試験全般に向けた筆

記試験対策や面接対策をしました。2次試験の英語は長文読解の問題を解いたり、英字新聞の記事を読んだりして対策しました。また、国立国会図書館の職員には社会の様々な事情への理解が求められていると考え、試験勉強で忙しい中でも日々の報道は欠かさずチェックしました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

就職活動全般を通して、自分をごまかしても仕方ないと感じました。試験のためとはいえ興味から大きく外れて勉強するのは難しく、面接用に本来の自分の性格と異なる性格を演じてもどこかで不一致が生じてしまうだけだと、少なくとも私自身に関しては感じました。それぞれの得意不得意や性格を自由に存分に発揮して、ありのままの評価を得ていくしかない自分では思っています。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

特に調査部門の業務に興味を持っていますが、それだけでなく様々な業務を経験し、幅広い業務を通じた国立国会図書館の意義を体現していきたいと思います。調査や資料収集、出張などでいつ外国語が必要となっても心配ないように、語学の学習を続けていきたいです。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

国立国会図書館職員の業務は誰もが知っているわけではありません。職員の存在に気づいた時点で、「縁」が始まっているのかもしれませんが。せっかく「縁」があり、さらにちょっとした「縁」を超えてぜひとも働きたいと思えるのならば、倍率や英語試験を怖がらず受験してみてください。

17. 24 歳男性

(施設設備専門職員採用試験合格者)

1. 学生時代の専攻・研究について

建築・都市システム学を専攻しており、建築環境工学研究室に所属していました。私はそこで、植物を用いてオフィスの作業ストレスを軽減させる研究を、心理的、生理的観点から行っていました。

2. 学生時代の思い出・頑張ったことなど

様々なかたちのものづくりをしました。弓道場をつくるために仲間を集めて、図面やプレゼン資料をつくり、学生課に掛け合ったことや、その仲間たちと応募した学生寮設計案のコンペティションにおいては、主に模型作りを担当し、カーテンや食器棚、勉強机などの細部まで作り上げました。また、保育園に大型の木造遊具を作ったことは、とても貴重な経験でした。

3. 国立国会図書館職員を志望した経緯・理由

学校の就活掲示板に貼られていた説明会の案内を目にして、国立国会図書館という名前と施設設備専門職員という職種に非常に興味を持ちました。説明会とその後実際に利用して、日本の知的財産のほとんどが集約している唯一無二の建築物の管理に大きな魅力を感じました。また、設備について多岐にわたる業務を経験することができることも志望動機の一つです。

4. 就職活動の方針

大きく2つありました。一つは、専攻していた建築に関わり、かつ建築にさまざまな面から携わることができる仕事であることです。もう一つはライフワークバランスをとることが可能

かどうかという点を重視しました。ただ長い時間働くのではなく、働くときはとにかく働き、休むときはとにかく休む、というメリハリのあ

5. 当館職員採用試験の試験対策

一次試験の対策は2冊の問題集を繰り返し勉強しました。とくに数的処理を重点的に。二次試験は、私は建築を選択したので、同時期に受験した二級建築士の資格試験の勉強が、二次試験の勉強になりました。面接は笑顔でハキハキ元気よく。緊張しているか聞かれたときは笑顔ではい！と答えました。

6. 当館の採用試験で印象に残っていること・就職活動を通しての感想

一次試験は総合職・一般職・施設設備専門職員受験者が全員集まっていたので、受験者数の多さに圧倒されました。面接は、面接官の方がとても優しく丁寧に対応してくださったので、自分の伝えたいことをすべて伝えることができました。自分の面接の直前に、案内をくださった館員の方が少し話しかけてくれたことで、緊張でガチガチに固まった身体をほぐすきっかけになったことを覚えています。

7. 国立国会図書館職員としてやってみたいこと・頑張りたいことなど今後の目標

近いうちにきっと訪れる東京本館の改修に、是非携わりたいです。また、必要とされる専門知識の勉強・資格取得は、これまで専攻してきた建築分野のみではなく、機械や電気分野についても積極的に頑張ります。

8. 国立国会図書館の受験を検討している方へのメッセージ

面接試験は面接官の方が優しく丁寧に自分を引き出してくれるので、緊張はしてもなにも心

配をする必要はないと思います。しかし、筆記試験は自分の頑張りがそのまま反映されるので、とにかく筆記試験の勉強をすることをお勧めします。